

令和7年度 第1回 宗像市文化財保護審議会 (議事録要旨)

期日：令和7年8月28日(木)

時間：13時00分から

会場：海の道むなかた館 講義室

出席者			事務局		
委員	伊崎	俊秋	部長	中村	博二
委員	國生	知子	課長	白木	英敏
委員	竹川	克幸	係長	山田	広幸
委員	田中	久美子	主任技師	豊崎	晃史
委員	福原	達人	主任技師	太田	智
委員	宮元	香織	主事	向	智美

次 第

1. 開会あいさつ
2. 委嘱状交付
3. 前回議事録の確認 【事前配布資料2】
4. 会長・副会長の選任
会長 伊崎俊秋 副会長 竹川克幸
5. 令和7年度職員体制について
6. 議事録の作成方法について
要点を記録する形で議事録を作成。
7. 議事
〔報告〕
 - 1) 令和6年度文化財保護事業について【事前配布資料3】○委員
消防団による防火ブラインド訓練について、具体的な内容と経緯について教えていただきたい。

○事務局

ブラインド訓練については、従来の消防訓練と違い、火災発生場所などを限定せず、発生場所の大まかな範囲のみを決定し、より本来の消火活動に近い形で実施する訓練となっている。

また、これまで文化財防火デーに併せて、一部の大きな社寺については例年消防訓練などを実施しているが、市内に数多くある社寺全体で見ると、訓練経験がない社寺も多く、防災を管轄する部局と協議し、昨年度から新たに訓練を開始している。

○委員

八所宮神幸行事用具等整備事業は展示のための什器と記載があるが、神社などで展示を行ったのか。

○事務局

商業施設での展示解説などを行う際の展示什器を作製した。地域の文化祭での神輿の展示なども実施し普及啓発活動を行っており、そのための経費となっている。

○委員

田熊石畑遺跡歴史公園の維持管理業務を地域に委託しているとあるが詳細を教えてください。

○事務局

遺跡公園のある東郷地区コミュニティ運営協議会と協働委託契約を結び、公園の維持管理業務やイベント対応、HP等での広報など実施している。また、この協議会の構成団体として、歴史公園の開園から活動している田熊石畑遺跡村づくりの会（市民団体）が主に園内の安全管理などを担っている。

この成果もあり、近年は小学校の運動会や夏祭りなども開催され、地域と密着した公園の管理・運営を引き続き実施している。

2) 令和7年度文化財保護事業について【事前配布資料4】【当日配布資料1】

○委員

大クスの回復事業については、樹木医の方にも診断した上で事業を進められているため問題ないと考えているが、当初の樹木の衰弱状況について詳細を教えてください。

○事務局

平成28年5月に地域住民から樹木の一部が枯れているとの報告があった。枯れている箇所真下部分も併せて草が枯れていたため、断定はできないが除草剤の影響が想定される状況だった。

○委員

胴ぶきの状況などを見ると、樹木の状態に併せて適切に対応されていると思うが、今後の柵の整備についても具体案はあるか。

○事務局

胴ぶきについても、すべて除去せず樹木の状態を見ながら判断している。柵の設置につ

いても地域との調整や、簡易的な柵を設置するのか、地面が踏み固まる影響を減らすためのウッドデッキのような形にするのか検討中である。

○委員

樹木のことだけ考えれば、人が近づかないのが一番であるが、近くに住宅があり、また多くの方が観光などでもいらっしゃるとのことなので、バランスを考えた整備をお願いしたい。

○委員

樹勢回復事業とあるが、結果として樹勢は回復しているのか。

○事務局

樹勢は回復しており、枯れていた箇所についても新たに胴ぶきが確認できている。

○委員

他の委員からも指摘があったが、写真では近くに石段などが確認でき、多くの人が見学に来ることが想定される。現状、どの範囲まで柵を設置するなど事務局案はあるか。

○事務局

事務局としては、石段の外側を囲む範囲で、保護柵を設置できればと考えている。しかし、観光の観点や地域の意見も含め十分な合意形成ができていない。事務局としては、保護を最優先とするスタンスは保ちながら、活用するための課題を整理・解決しつつ事業を進めていきたいと考えている。

また、整備の進捗についても委員の皆様には適宜ご報告する。

○委員

参考事例として鹿児島県の蒲生の大クスではウッドデッキ状に整備している。整備方法については、いろいろな選択肢を地元と協議しながら事業を進めていただきたい。

○委員

世界遺産のカードラリーイベントの配布方法など詳細を教えてください。また、配布状況はどうか。

○事務局

海の道むなかた館では、来館者や体験イベントの参加者などを対象に配布している。非常に好評で、一部施設では在庫がなくなり増刷すると聞いている。詳細はまだ集計していないため不明であるが、大島交流館やいせきんぐ宗像（田熊石畑遺跡歴史公園）でもカードの収集を目的に来館・来園する方が多いと報告を受けている。

○委員

むなかた歴史クラブの塩づくり体験とあるが実施場所など具体的な内容を教えてください。

○事務局

塩づくり体験については、いせきんぐ宗像で実施予定である。また、可能な限り古代の製法で塩を作成し、食材なども調理しながら体験学習を行う予定である。

○委員

宗像大社で象嵌の国宝遺物について発表があり、考古学的な注目もあったと思うが、来館者の増加など反響はあったか。

○事務局

当館でもこれに関連して企画展を開催するなど、関連イベントを実施したが、大勢の方が来館するといった動きは現状では確認できていない。

今後、宗像大社の方で復元レプリカなどを作成し、より分かりやすい展示を行う予定と伺っている。

○委員

であれば、市としても宗像大社への考古学的な知見に基づくアドバイスを適宜行っていただきたい。また、全国的にも貴重な事例であるため、周知及び広報活動についても協力して進めていただきたい。

○委員

野坂榎元遺跡の調査概要について内容の報告をお願いしたい。

○事務局

8月初旬から調査に着手しており、2基の古墳を確認した。調査区北側の一基は、古墳時代前期の粘土槨を主体部とするものであり、南側の一基については、竪穴系横口石室で古墳時代中期を想定している。10月末までに調査完了予定である。

○委員

野坂榎元遺跡の現地説明会の予定や、調査の経緯についてご説明いただきたい。

○事務局

調査については、宅地造成に伴う発掘調査であり、現地説明会については開発業者と協議中である。

○委員

宗像大社の矛象嵌については、注目しており、その他の委員からも指摘があったように市の文化財部局で適切な助言を行っていただきたい。

○委員

市内にはその他にも貴重な樹木などがあり、先日の大雨などの自然災害など、モニタリングや巡回など対応が必要と考えるが、事務局としての考えがあればお聞きしたい。

○事務局

指定案件のものについては、すべて大雨被害後巡回・確認している。ただし、年々地域での管理が難しくなっているものが増加している。これまで以上に巡回の回数や地域との連絡を取っていく必要があると認識している。

○委員

指定文化財件数だが、平成29年以降新規指定がない。市内文化財の中で指定に該当する

ものがあれば当審議会で提案していただければと考えている。

3) デジタル地域副読本について【事前配布資料5】

○委員

デジタル地域副読本とあるが、紙媒体の印刷は行わず、一般公開もしないのか教えていただきたい。

○事務局

基本的には、紙媒体での印刷は行わず、デジタルのみで作成する方向で考えている。また、一般向けの公開は、現在設置・運営しているデジタル地域副読本の編集委員会内で合意形成を図りながら進めていきたいと考えている。

○委員

モデル案として取り扱っている八女市の副読本は誤植などもあり完成から5～6年で改定されている。デジタルデータで管理するとしても、校正には十分な時間を確保しつつ事業を進めていただきたい。

○事務局

編集委員会でもご指摘の内容を共有させていただく。

○委員

デジタルデータが主体となるのは問題ないが、数冊は紙媒体での印刷物があった方がよいと考えている。少なくとも、調べ学習の際に各学校、図書館に2冊程度は配布することを検討してはどうか。また、記録として残すといった点でも意味があると思う。

○事務局

承知した。この点についても、編集委員会で情報共有させていただきたい。

○委員

モデル案として八女市のものを選ばれた理由を伺いたい。また、市としてのオリジナリティをどのように出していくのかも確認したい。その他、市内の小学生にはタブレットなどが配布されており、利用可能な状況か。

他の委員がご指摘されたように、一般向けの公開方法については、検討が必要と考えている。県立図書館など研究者や一般の方も閲覧できる形にしてはどうか。

○事務局

副読本は、あくまで資料集として使用するものや教科書同様に使用するものなど、いくつかパターンがある。その中で、当市の理想とするイメージと八女市の地域副読本が近かったため、モデル案とした。

また、一般的な教科書では学べない宗像市の具体例を記載することで、よりオリジナリティの高い地域副読本を作成したいと考えている。

小学校は、個人用タブレットを配布しているためデジタル副読本に対応できる状態にある。一般向けの公開については、特に問題がなければ、公開を前提に議論を進めていきたい。

○委員

タブレットの容量の問題についても、編集委員会で議論していただきたい。小学生用の

タブレットだと容量が小さく、ご紹介されている 200 ページの副読本となると対応できないなどの問題が発生する可能性がある。

○事務局

承知した。情報共有させていただく。

4) 宗像市文化財保護事業補助金交付要綱の改正について【事前配布資料 6】

○会長

確認であるが、令和 6 年 5 月 1 日より施行しており、それに準じて事業を進めているという認識で間違いはないか。

○事務局

改正された要綱に準じて補助事業を進めている。

5) 令和 7 年 8 月 9 日からの大雨による文化財の被害について【当日配布資料 2】

○委員

被災のあったイヌマキ天然林だが、直接的な被害は確認されているか。

○事務局

イヌマキ天然林は、織幡神社の境内地の地番に対して指定されている。今回の大雨でイヌマキ天然林に直接的な被害はなかったが、地番標記でいえば法面の崩落などが確認されているためき損届を提出している。

〔審議〕

1) 地域伝統行事の継承に係る支援について【事前配布資料 7】

○委員

要綱の改正で、補助の対象を広げられたとは思いますが、その範囲や条件が明確に定まっていないように感じる。今回の案件に限らず、この点については対応を検討してはどうか。

○事務局

現在、本市としても文化庁の補助金要綱に準じて、これまでの衣装を踏襲するものについては補助を認めるなど、同様の対応をとっている。地域からは様々な要望があり、現状個別具体的に内容を精査し、補助の条件に該当しているかチェックしている。

○委員

今後も広く支援を行っていくというスタンスで補助事業を進めた場合、今回の白丁衣装のように一般的に広く使用されているものであれば、多くの地域や団体から申請があった場合対応できないなどの事態にならないか。

○事務局

白丁衣装に限って言えば、本市で同様の衣装を使用している伝統行事は 10 に満たないため、本件に限っては問題ないと認識している。

○委員

他の委員もご指摘されているように市として内規を作成されてはどうか。また、指定文化財の補助とそれ以外の文化財補助を分けて考えながら、市として広く支援していくとい

う方針は理解できる。今後、採択順の方法をとるなど、対応を検討していただきたい。

○事務局

承知した。

○委員

支援することについては、賛成であるが必要枚数など明確にするなど課題があると考え
る。

○委員

他の委員のご指摘のとおり、条件に必要な枚数に限定するなど記載してはどうか。

○事務局

では、ご提案として交付決定の条件に必要な枚数に限るといった文言を入れる形で支援
を行いたい。

○会長

条件を付した形で採択としたいがどうか。

○委員

必要枚数の確認など、事務局としては大変と思うが、確認しつつ支援を進めていただき
たい。

8. その他

9. 閉会あいさつ

/